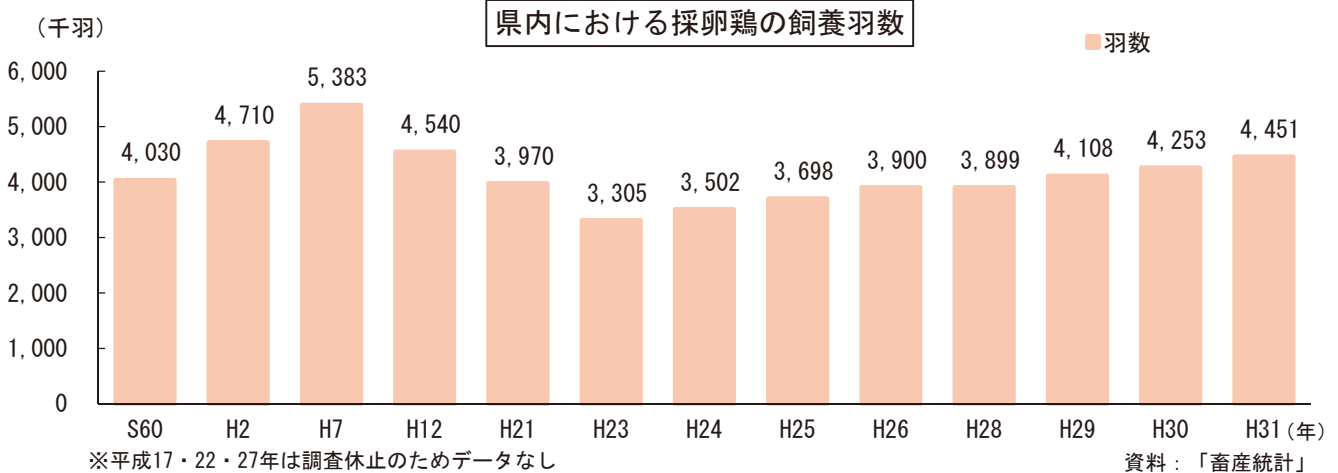
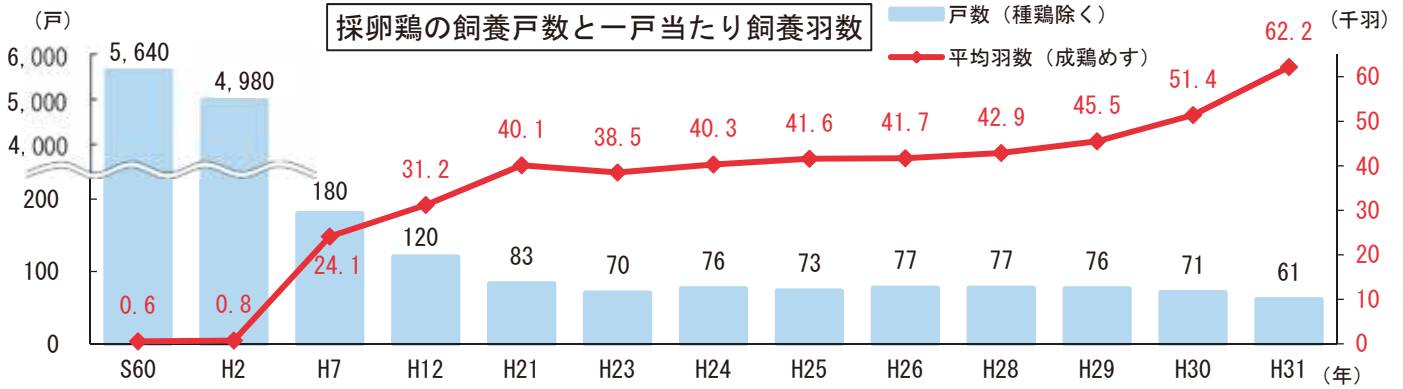


## 4 採卵鶏

### (1) 戸数と羽数の推移

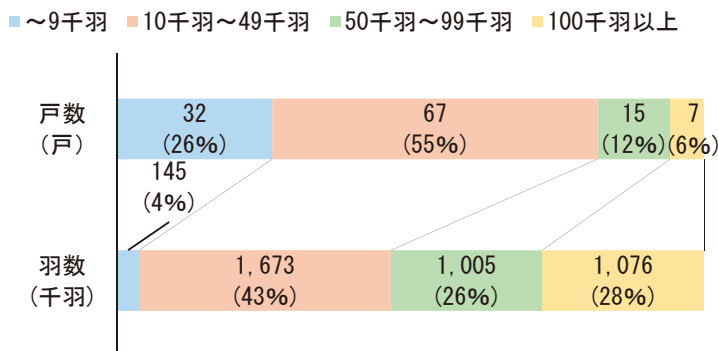
戸数は、平成12年までに大幅に減少し、その後はほぼ横ばいで推移している。羽数についても、年ごとの増減は緩やかであるが増加傾向で、平成29年からは規模拡大が進んでいる。



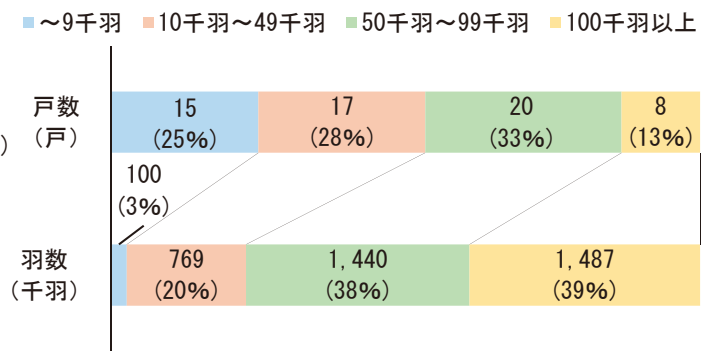
### (2) 成鶏めす飼養規模別戸数・羽数

5万羽規模以上の農家は、平成11年には戸数で全体の18%、飼養羽数で54%であったが、平成31年には、戸数で46%、飼養羽数で77%を占めるなど、大規模化が進んでいる。

【H11 成鶏めす飼養規模別戸数・羽数】



【H31 成鶏めす飼養規模別戸数・羽数】

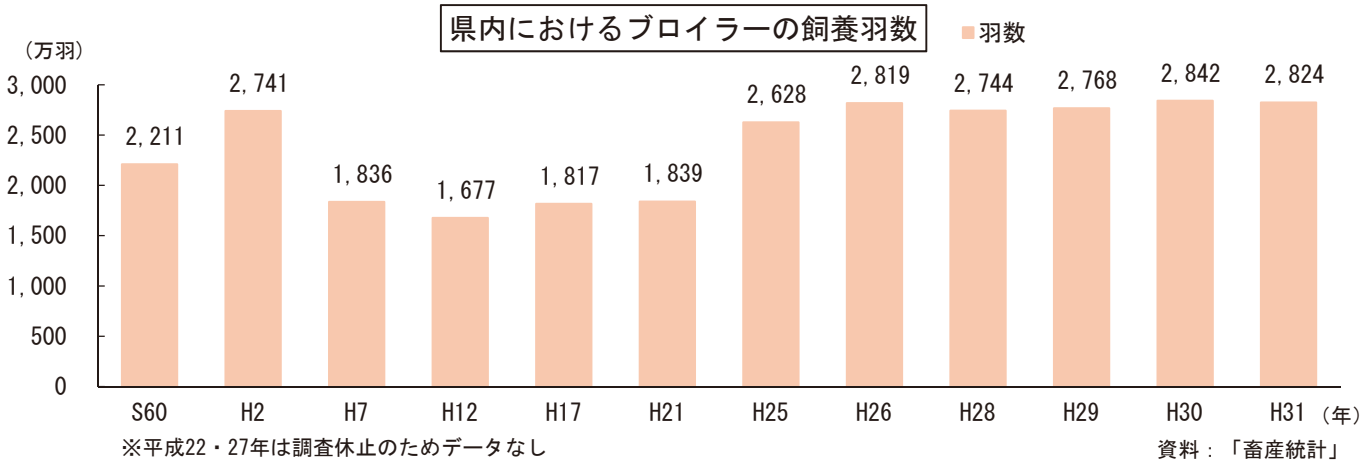
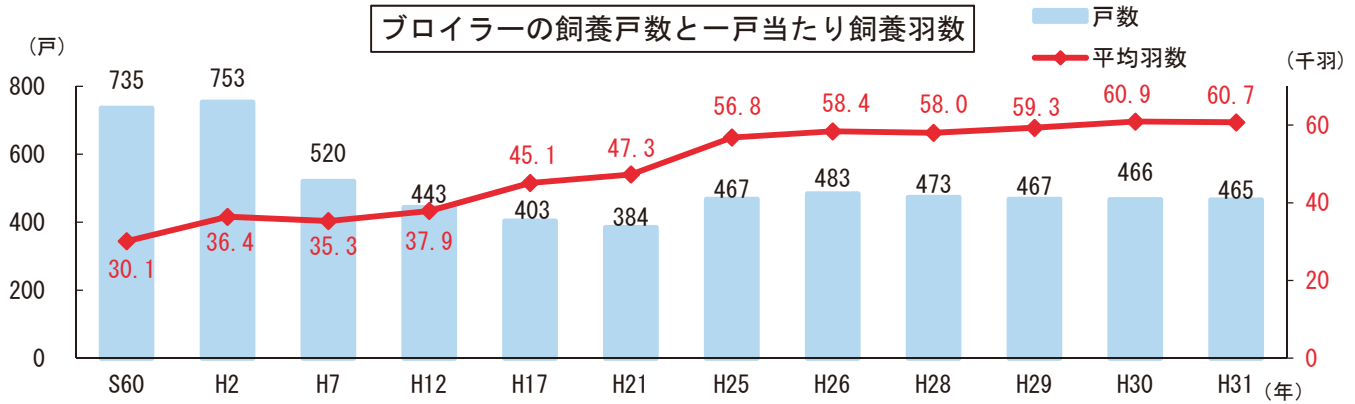


資料：「畜産統計」

# 5 ブロイラー

## (1) 戸数と羽数の推移

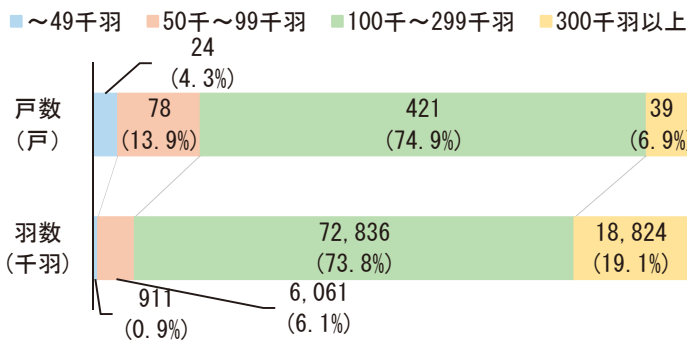
戸数減少は他の畜種に比べ緩やかに推移している。羽数は増羽傾向であったが、近年はほぼ横ばいとなっている。



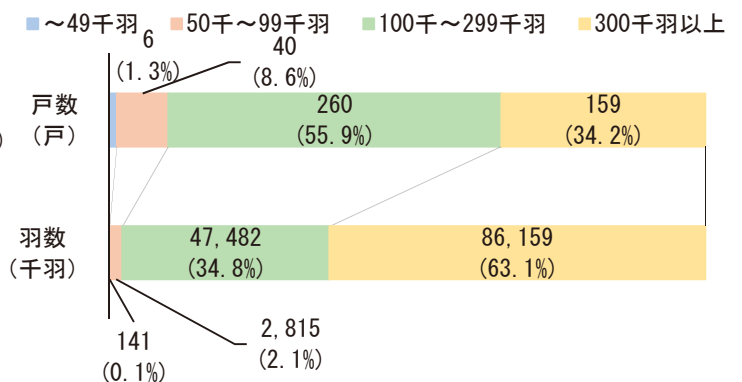
## (2) 年間出荷規模別戸数・羽数

出荷羽数30万羽以上の農家は、平成11年には戸数で全体の7%、出荷羽数で19%であったが、平成31年には戸数で34%、出荷羽数で63%を占めるなど、大規模化が進んでいる。

【H11 ブロイラー出荷規模別戸数・頭数】



【H31 ブロイラー出荷規模別戸数・頭数】

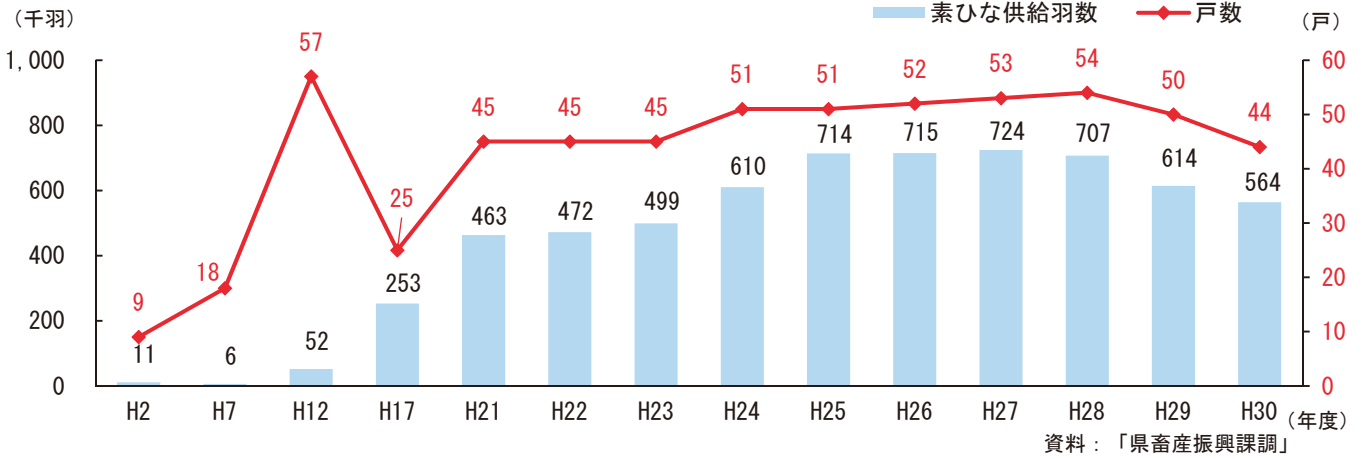


資料：「畜産統計」

## 6 みやざき地頭鶏

### 素ひな供給羽数の推移

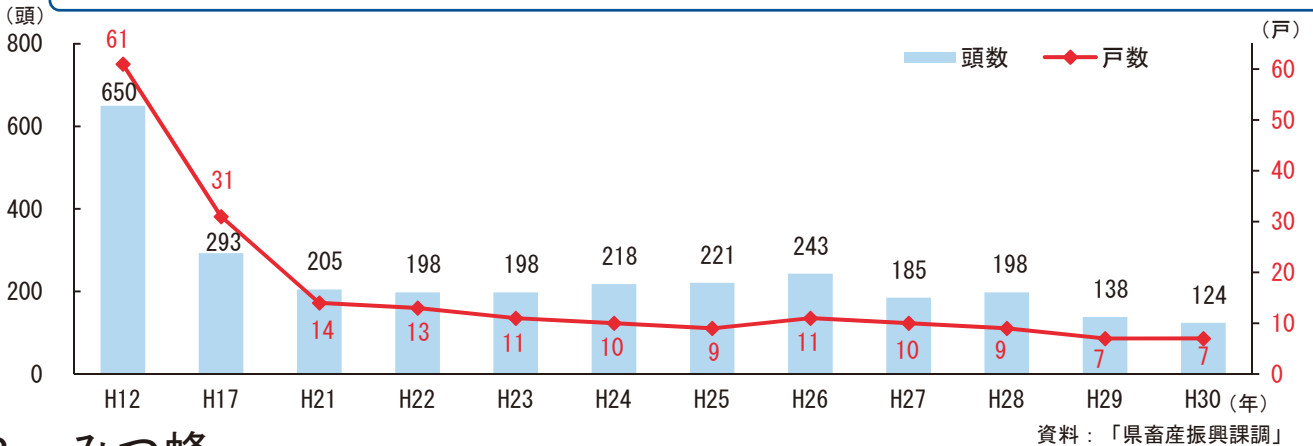
平成2年度からみやざき地頭鶏の素ひな供給が開始され、供給羽数は平成17年度から大きく増加し、平成25年度からは70万羽を超えて推移してきた。しかし、平成28年度から減少し、平成30年度は56万羽の供給であった。



## 7 農用馬

### 飼養状況の推移

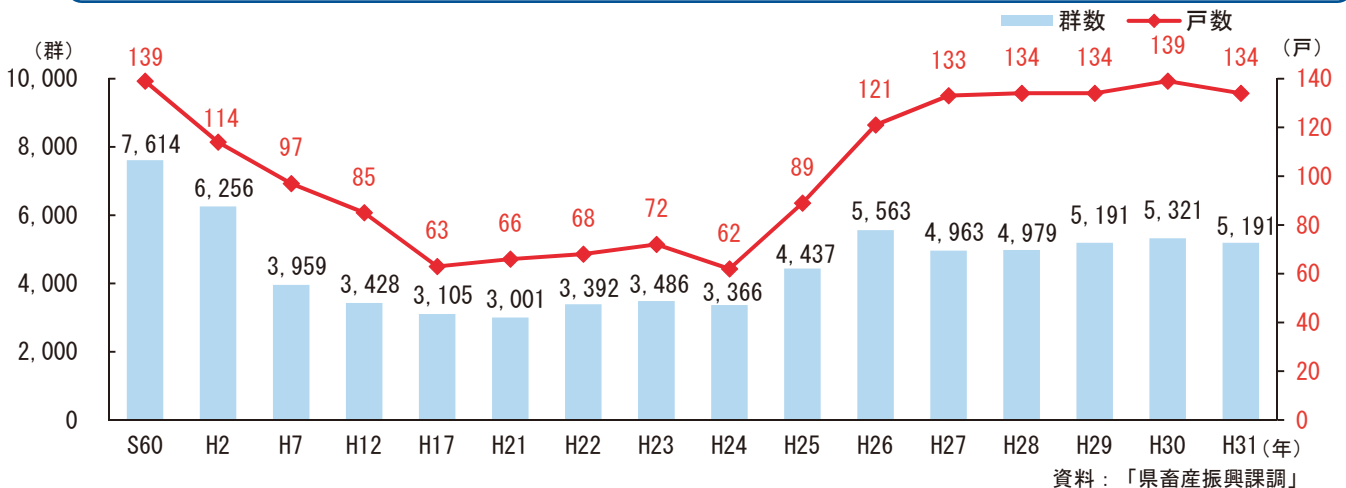
飼養頭数が減少傾向で、平成30年では、7戸で124頭が飼育されている。



## 8 みつ峰

### 戸数と群数の推移

平成25年の養蜂振興法の改正により、趣味で飼育されている方からも飼育届が提出されることになり、戸数・群数ともに増加している。

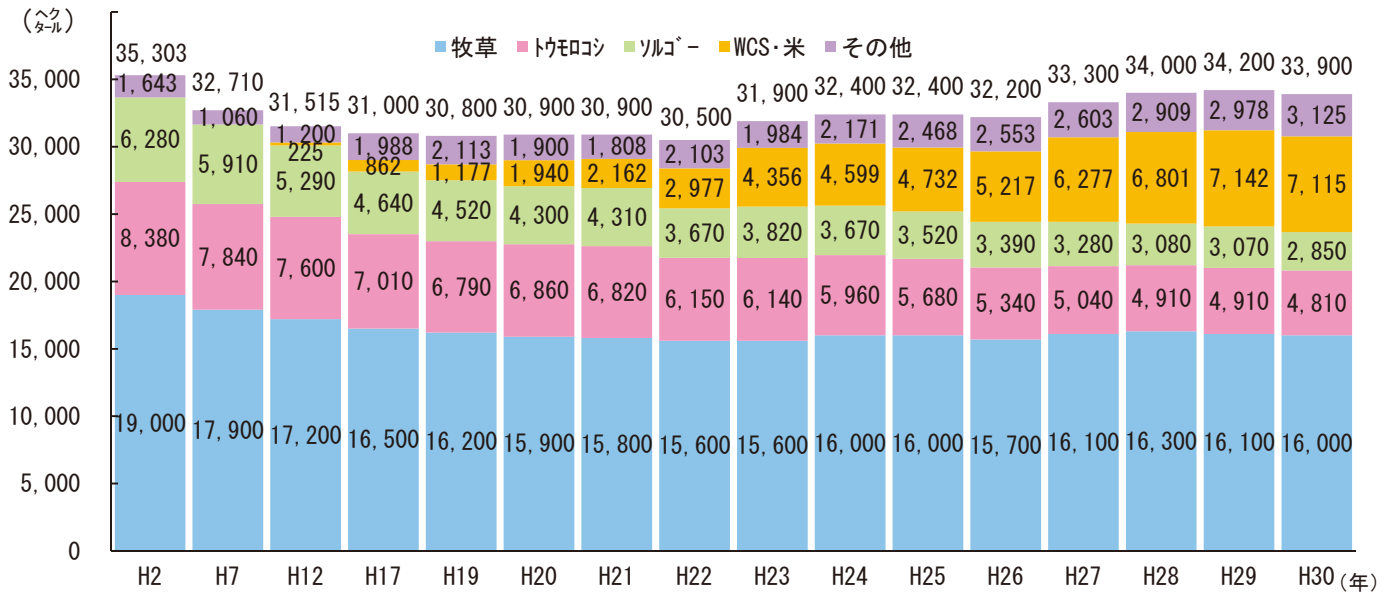


# V 飼料

## 1 自給飼料

### 飼料作物作付面積の推移

平成22年以降、飼料用稲の増加もあり飼料作物の作付面積は増加傾向にあったが、長大作物の減少等により、作付け面積は横ばいとなっている。

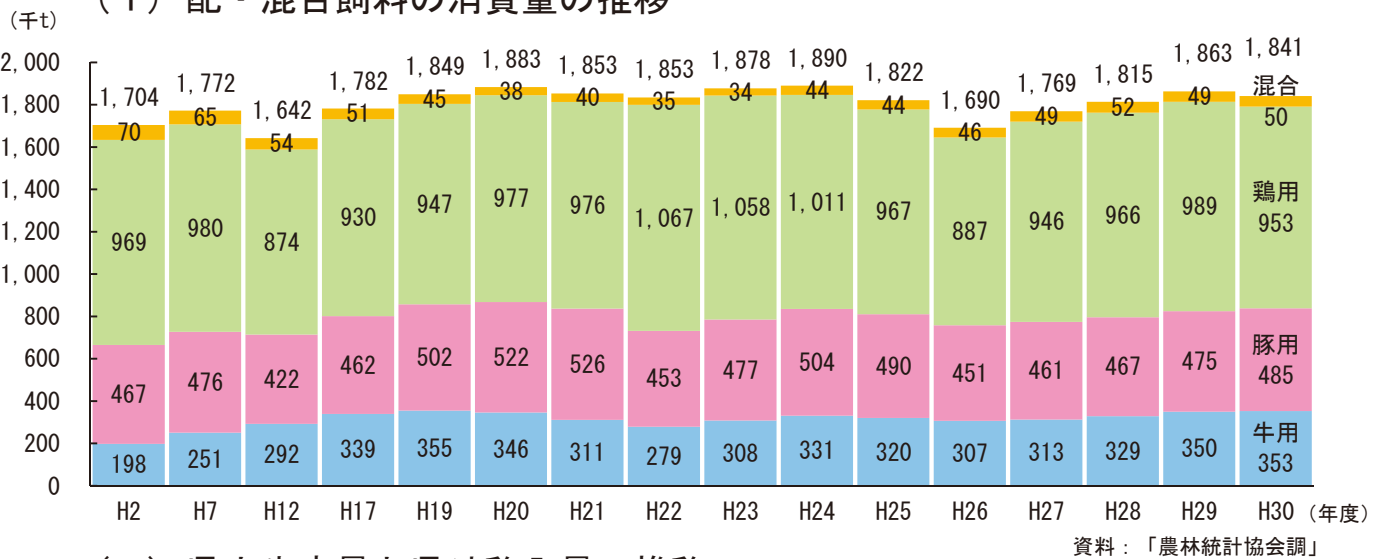


## 2 流通飼料

資料：「農林水産統計」

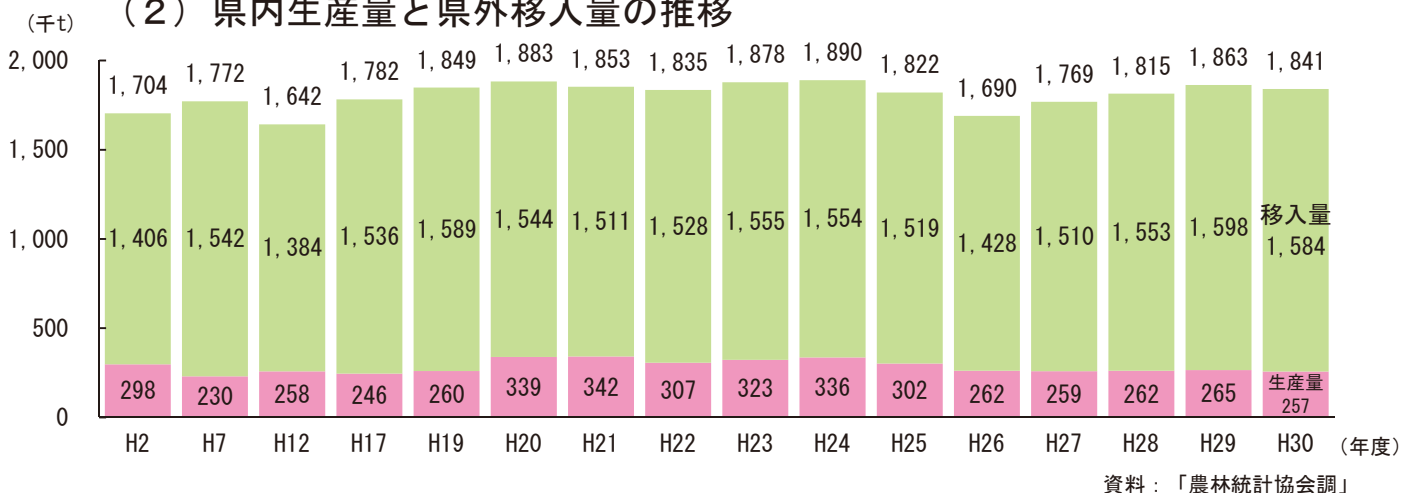
毎年180万t程度が消費されており、その約86%が県外からの移入によるものである。

### (1) 配・混合飼料の消費量の推移



資料：「農林統計協会調」

### (2) 県内生産量と県外移入量の推移

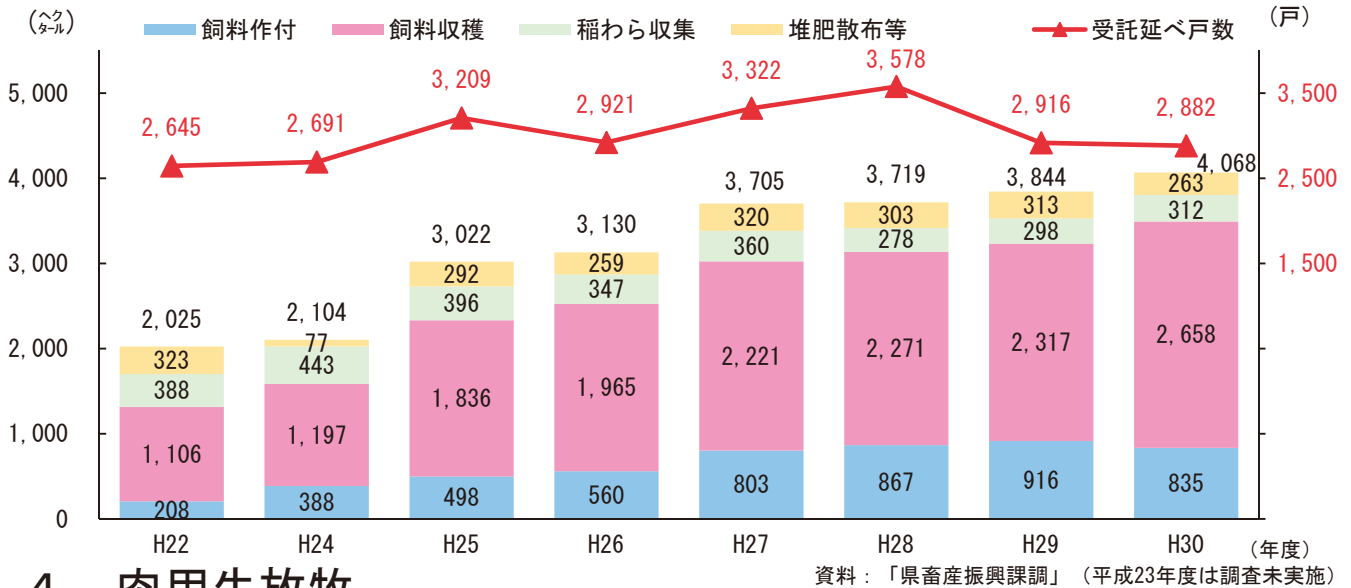


資料：「農林統計協会調」

### 3 作業受託

#### 作業受託面積・戸数の推移

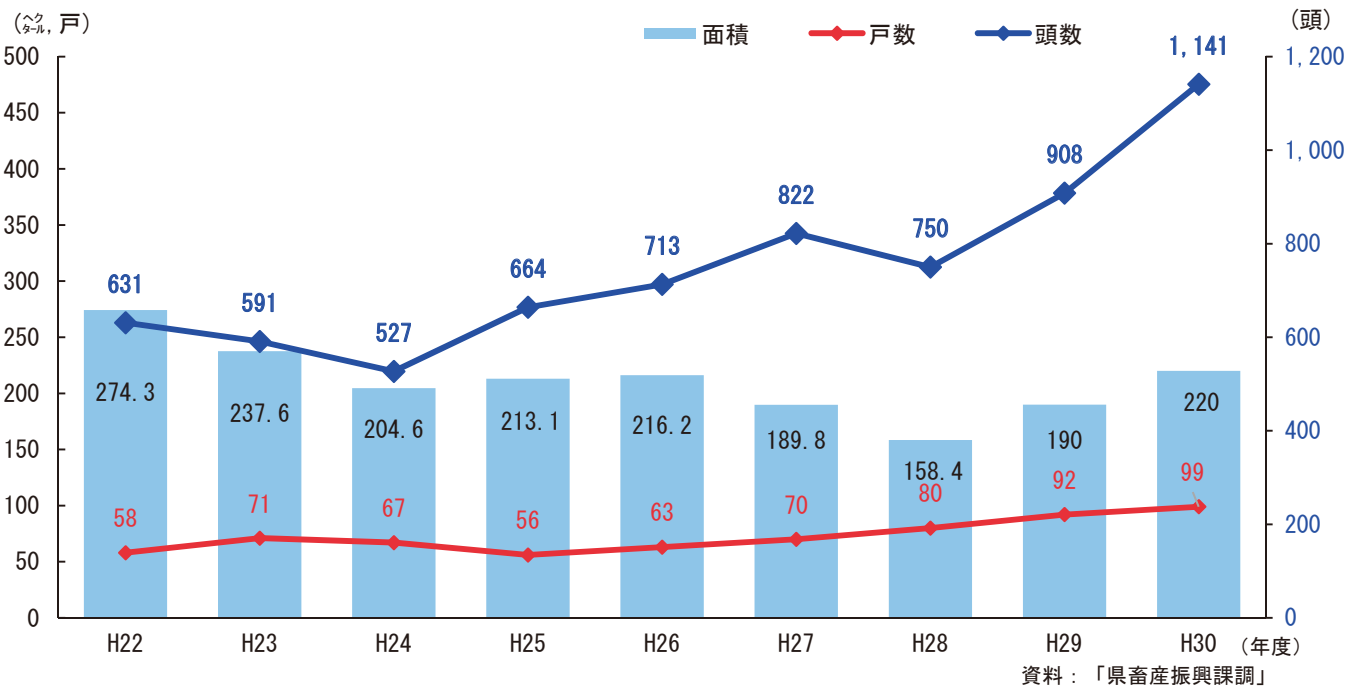
コントラクターによる飼料作物関連の作業受託面積は年々増加し、分業化が進んでいる。



### 4 肉用牛放牧

#### 放牧面積・戸数・頭数の推移

平成22年の口蹄疫発生以降、放牧面積・頭数ともに減少した。近年は戸数・頭数は増加に転じており、放牧面積も回復傾向にある。



子実用トウモロコシの栽培実証



中山間地域における放牧の様子

## VI 家畜衛生

### 1 検査実施状況（主な監視伝染病）

（単位：頭、羽、群）

病名	年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
結核		3,053	929	4,052	4,101	3,059	3,025	2,658	3,318	2,559	3,133
ブルセラ症		2,514	538	3,289	3,623	2,656	2,709	2,383	2,860	1,850	2,284
ヨーネ病（牛）		3,712	2,297	6,060	4,651	2,602	2,821	3,617	5,010	3,846	4,513
牛白血病		4,594	4,984	7,076	6,935	4,758	4,690	7,412	13,610	17,624	19,666
C S F		1,510	100	710	949	1,073	1,024	984	913	985	1,024
オーエスキー病		17,835	5,738	14,001	18,856	15,935	7,818	10,127	8,816	9,738	7,978
豚繁殖・呼吸障害症候群		1,998	919	5,386	5,261	6,026	5,910	6,281	5,265	6,165	6,648
豚流行性下痢		305	0	0	180	130	740	968	364	0	0
伝染性胃腸炎		305	0	0	180	130	130	310	180	0	0
高病原性鳥インフルエンザ		3,089	1,992	1,857	2,638	2,384	2,318	1,918	3,567	3,621	2,221
ニューカッスル病		3,265	970	90	1,826	2,385	2,353	2,232	2,603	2,414	1,920
腐蛆病		3,040	1,465	4,032	3,297	3,749	3,969	3,701	3,629	3,504	3,403

資料：「県家畜防疫対策課調」

### 2 家畜伝染病発生状況（主な監視伝染病）

（単位：頭、羽、群（口蹄疫・鳥インフルエンザの上段は殺処分頭羽数、下段は件数））

病名	年次	H21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
口蹄疫		—	297,808 (292)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヨーネ病（牛）		—	—	—	1	—	—	2	2	7	1	—
牛白血病		15	32	42	50	64	56	115	101	122	137	160
牛ウイルス性下痢・粘膜病		—	—	1	1	—	—	1	4	9	15	16
豚流行性下痢		—	—	—	—	16	272	43	29	4	11	2
伝染性胃腸炎		—	—	—	1	—	17	—	—	—	—	—
豚丹毒		18	8	8	21	19	18	31	32	31	21	24
高病原性鳥インフルエンザ		—	—	1,011,968 (13)	—	—	46,025 (2)	—	116,977 (1)	166,195 (1)	—	—
腐蛆病		21	—	28	10	2	5	—	—	—	—	—

※H21以前に発生した監視伝染病（最終発生、頭羽数）

流行性脳炎（S58年、1頭）、結核病（S60年、1頭）、馬伝染性貧血（S54年、3頭）、C S F（S55年、741頭）

ニューカッスル病（S57年、10,431羽）、ひな白痢（S53年、589羽）

資料：「県家畜防疫対策課調」

### 3 予防接種実施状況

(単位:千頭)

ワクチン名	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
牛呼吸器5種混合	76	64	62	66	62	60	57	42	39	39
牛呼吸器6種混合	—	—	—	—	—	—	—	—	0.2	0.1
牛呼吸器5種・ヘモ混合	—	—	—	—	—	—	—	18	23	24
牛異常産3種混合	70	55	61	52	50	47	52	53	35	9.4
牛異常産4種混合	—	—	—	—	—	—	—	—	26	58
イバラキ病	26	6	22	25	23	22	21	22	23	23
牛流行熱・イバラキ病混合	0.7	0.04	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
炭疽	27	17	20	19	18	17	18	18	18	17
オースキー病	1,500	1,005	966	886	390	234	84	3.6	3.0	4.7
A R B P ・ 豚丹毒	—	—	—	—	13	0	—	—	—	—
豚丹毒	592	325	294	220	177	5.8	8.7	9.7	9.3	8.5

資料：「県家畜防疫対策課調」  
「宮崎県畜産協会調」

### 4 県内の家畜人工授精成績 (県内で開設する家畜人工授精所のデータを集計)

#### (1) 肉用牛

(単位:頭)

年次	受胎成績						生産頭数					備考	
	雌実頭数	受胎頭数	流死産頭数	不受胎頭数	不明頭数	受胎率	生産頭数	雄	雌	早産、生後 へい死 H	生産率	双子	三子
	A	B	C	D	E	B/(A-E)	F+G+H	F	G	F+G+H/(A-E)			
H25	78,113	63,763	1,762	9,085	5,265	88%	62,270	31,296	30,513	461	85%	269	0
H26	78,484	63,781	1,585	9,283	5,420	87%	62,524	31,677	30,362	485	86%	326	1
H27	79,983	65,016	1,857	9,667	5,300	87%	63,518	32,395	30,726	397	85%	359	0
H28	82,853	67,956	1,859	9,438	5,459	88%	66,484	34,110	31,831	543	86%	381	3
H29	86,102	69,886	1,918	10,137	6,079	87%	68,379	34,985	32,762	632	85%	407	2

資料：「県家畜防疫対策課調」

#### (2) 乳用牛

(単位:頭)

年次	受胎成績						生産頭数					備考	
	雌実頭数	受胎頭数	流死産頭数	不受胎頭数	不明頭数	受胎率	生産頭数	雄	雌	早産、生後 へい死 H	生産率	双子	三子
	A	B	C	D	E	B/(A-E)	F+G+H	F	G	F+G+H/(A-E)			
H25	6,052	4,005	238	1,436	611	74%	3,827	1,854	1,902	71	70%	60	0
H26	5,943	3,757	199	1,482	704	72%	3,622	1,836	1,735	51	69%	62	1
H27	5,532	3,359	206	1,525	648	69%	3,199	1,538	1,614	47	65%	46	0
H28	5,358	3,273	194	1,640	445	67%	3,143	1,453	1,648	42	64%	64	0
H29	5,278	3,317	218	1,669	292	67%	3,162	1,449	1,638	75	63%	61	1

資料：「県家畜防疫対策課調」

## 5 令和元年度の家畜衛生の話題 (ASF (アフリカ豚熱)、CSF (豚熱))

2018年8月にアジアでは初めて中国で確認されたASFは、アジア各国に拡大し、2019年9月には本県と直行便のある韓国でも発生、現在12の国と地域で確認されています。

一方、2018年9月に国内で26年ぶりに発生したCSFは、中部から関東に拡大、2020年1月には沖縄でも確認され、21都府県でワクチンが接種されることとなりました。

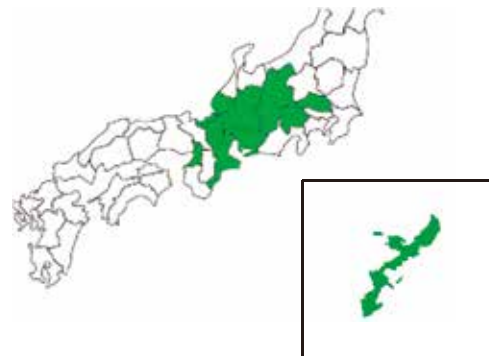
本県では、これらの疾病の侵入防止のために以下の対策を強化しています。

### ・アジアにおけるASFの発生状況



モンゴル	ベトナム	中国
ミャンマー	インドネシア	香港
ラオス	北朝鮮	フィリピン
カンボジア	韓国	東ティモール

### ・日本におけるCSF発生状況



岐阜県	長野県	福井県
愛知県	大阪府	埼玉県
滋賀県	三重県	山梨県
沖縄県		

令和2年1月現在

## ASF・CSF

- ・海外からの畜産物等を介したウイルスの持込み
- ・症状が明確でないことからの発見の遅れ
- ・野生イノシシでのCSFウイルス浸潤

### 水際防疫対策

- ①外国人労働者や留学生等への防疫啓発
- ②宮崎空港ビルにおける靴底消毒の強化
- ③カーフェリー・ホテル・旅館・ゴルフ場などでの靴底消毒
- ④海外旅行者への防疫啓発キャンペーン

### 農場防疫対策

- ①家畜保健衛生所による農場でのサーベイランス検査
- ②県外導入豚の着地検査
- ③農場巡回による防疫指導

### 野生イノシシ対策

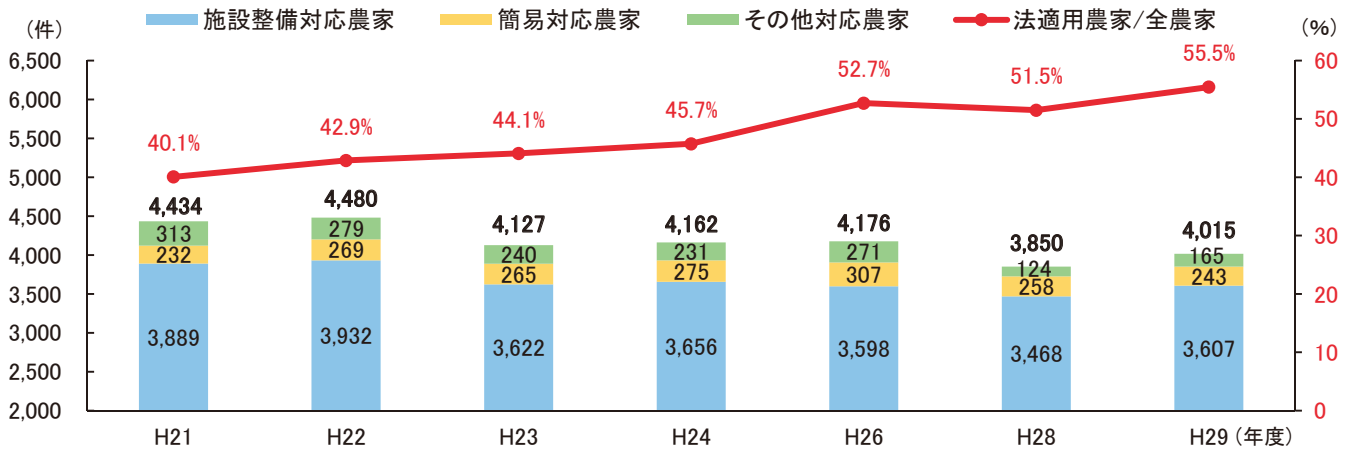
- ①猟友会と連携した捕獲野生イノシシの検査
- ②死亡野生イノシシの検査



# Ⅶ 環境保全

## 1 家畜排せつ物法管理基準適用農家の状況

家畜排せつ物法適用農家のうち、約9割が施設整備による対応で、残り1割が簡易対応とその他対応である。全農家に占める法適用農家の割合は増加傾向にある。



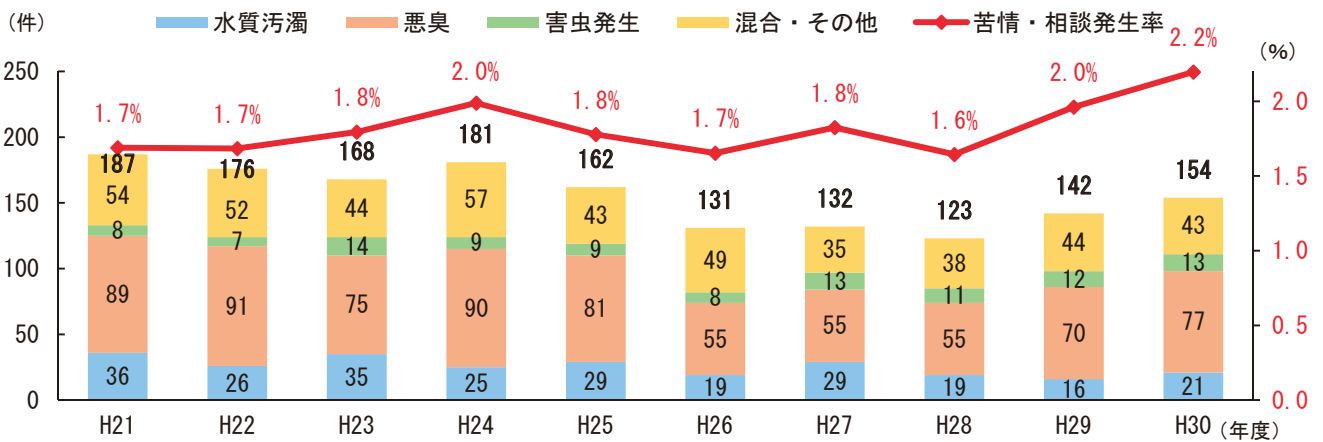
資料：「県畜産振興課調」

※H25・H27・H30は調査なしのためデータなし

## 2 畜産環境苦情・相談件数

### (1) 種類別件数の推移

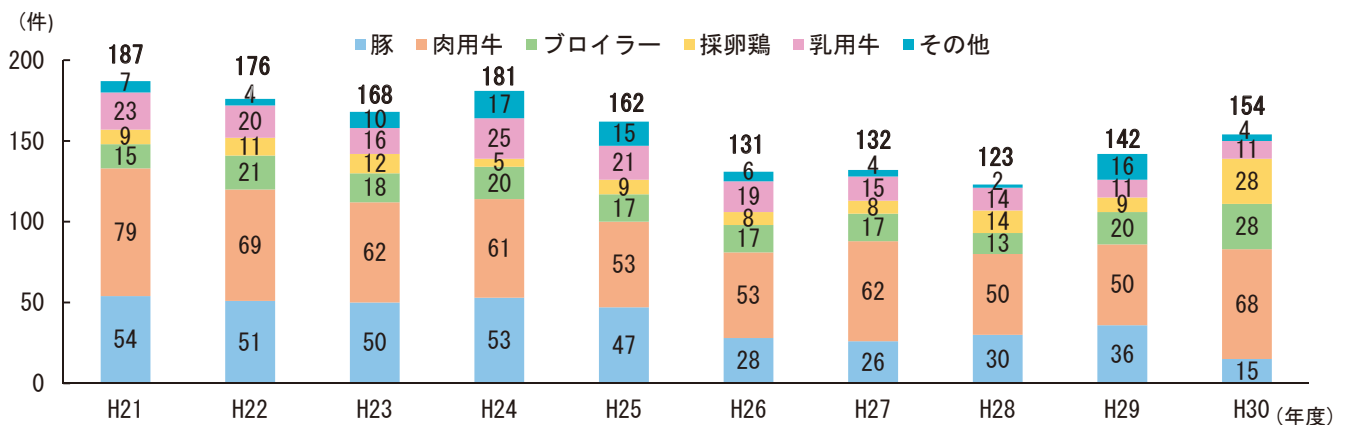
悪臭関係が約半数であり、次いで混合・その他が約3割、水質汚濁と害虫発生がそれぞれ約1割である。全農家に対する苦情・相談発生率は、増加している。



資料：「県畜産振興課調」、「畜産統計」、「農林業センサス」

### (2) 畜種別件数の推移

畜種別にみると、肉用牛に関するものが最も多く、ブロイラーで増加傾向にある。

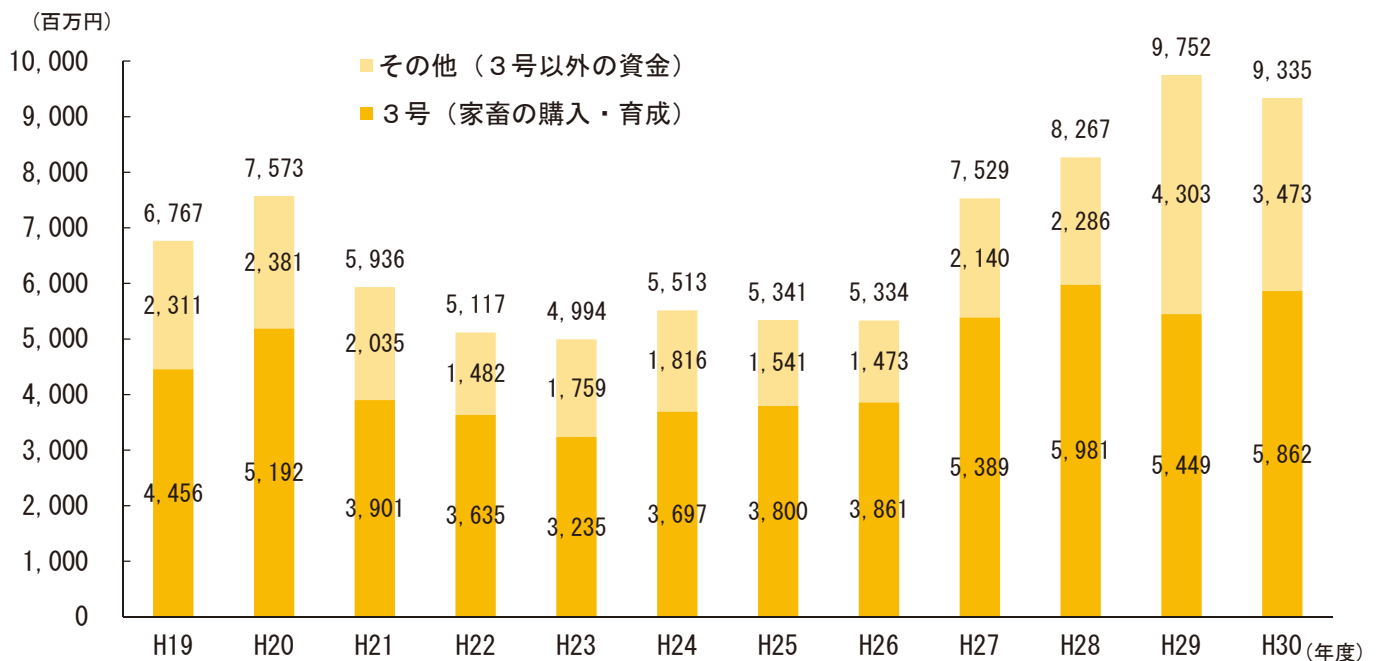


資料：「県畜産振興課調」

## VIII 畜産金融

### 1 農業近代化資金の貸付実績

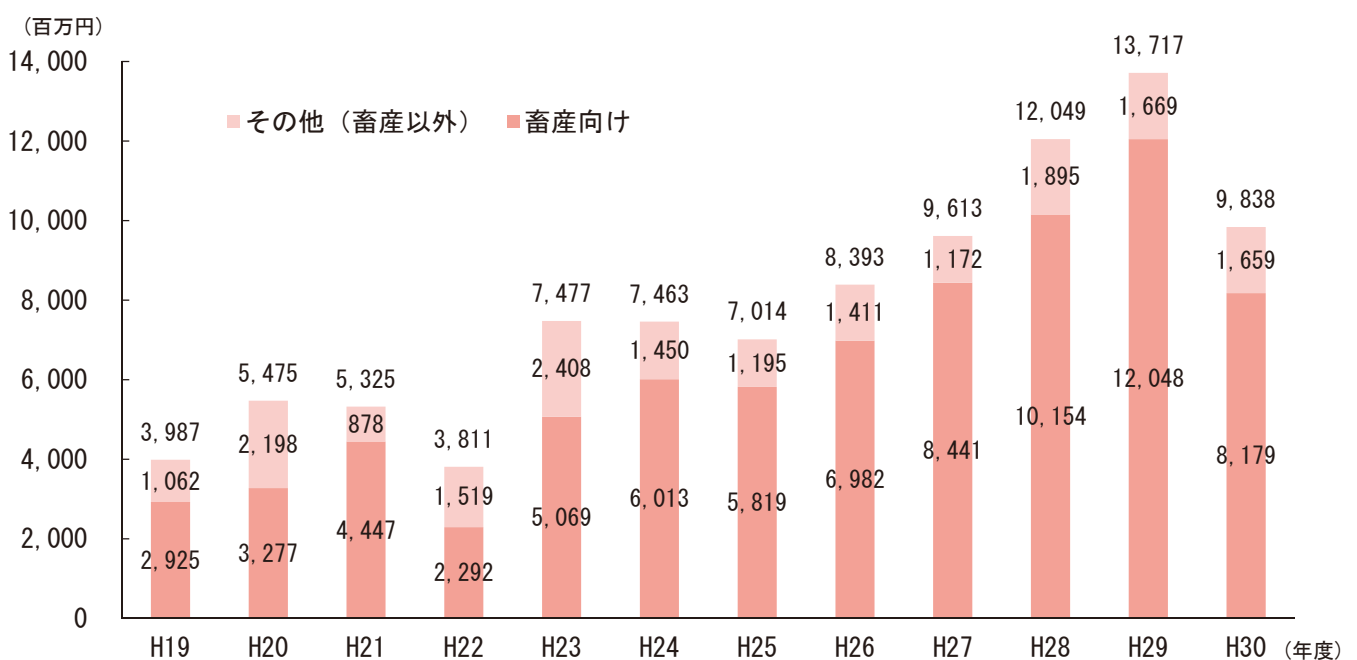
主に肥育素牛の導入に利用される3号資金（家畜の購入・育成に係る資金）の割合が高く、近年は50億円程度で推移している。



資料：「県農業経営支援課調」

### 2 スーパーL資金（農業経営基盤強化資金）の貸付実績

畜産向けの貸付が約8割と高く、平成26年度以降、畜産クラスター事業の補助残融資等により、貸付の多い状態が続いている。

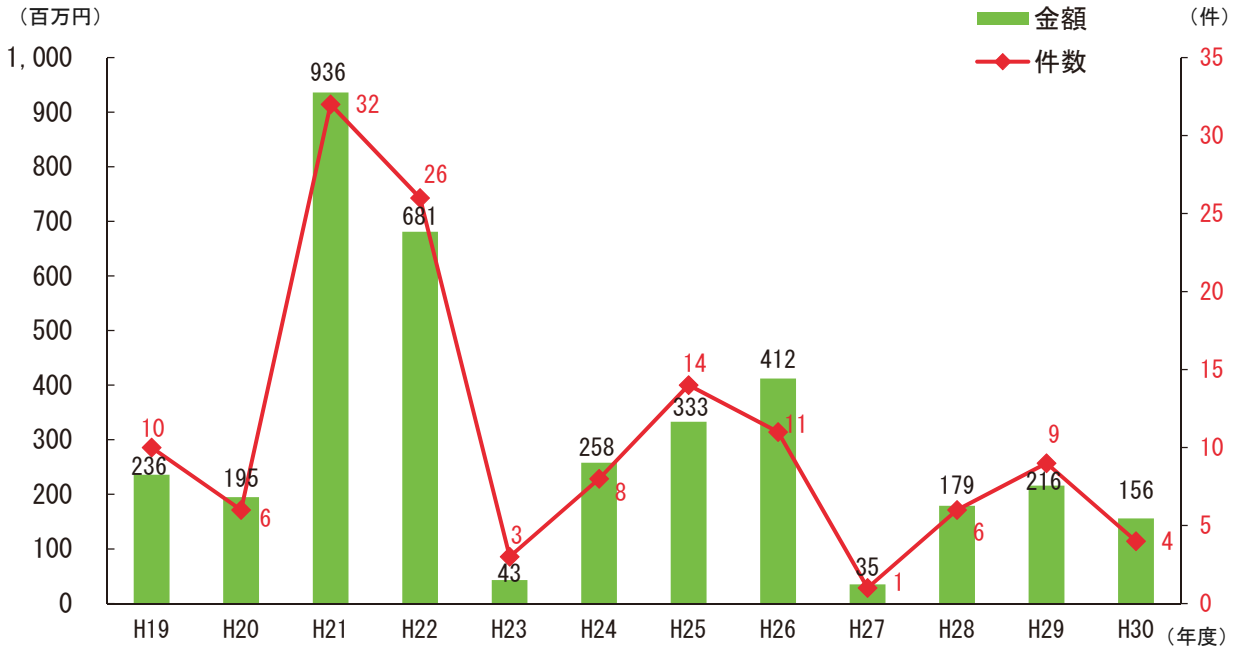


資料：「日本政策金融公庫宮崎支店調」

### 3 畜産特別資金の貸付実績

平成21年度は家畜飼料の高騰、平成22年度は口蹄疫の影響で貸付金額及び件数が増加し、平成25年度及び平成26年度は一括借換えが可能な資金の貸付実施により金額及び件数が増加している。

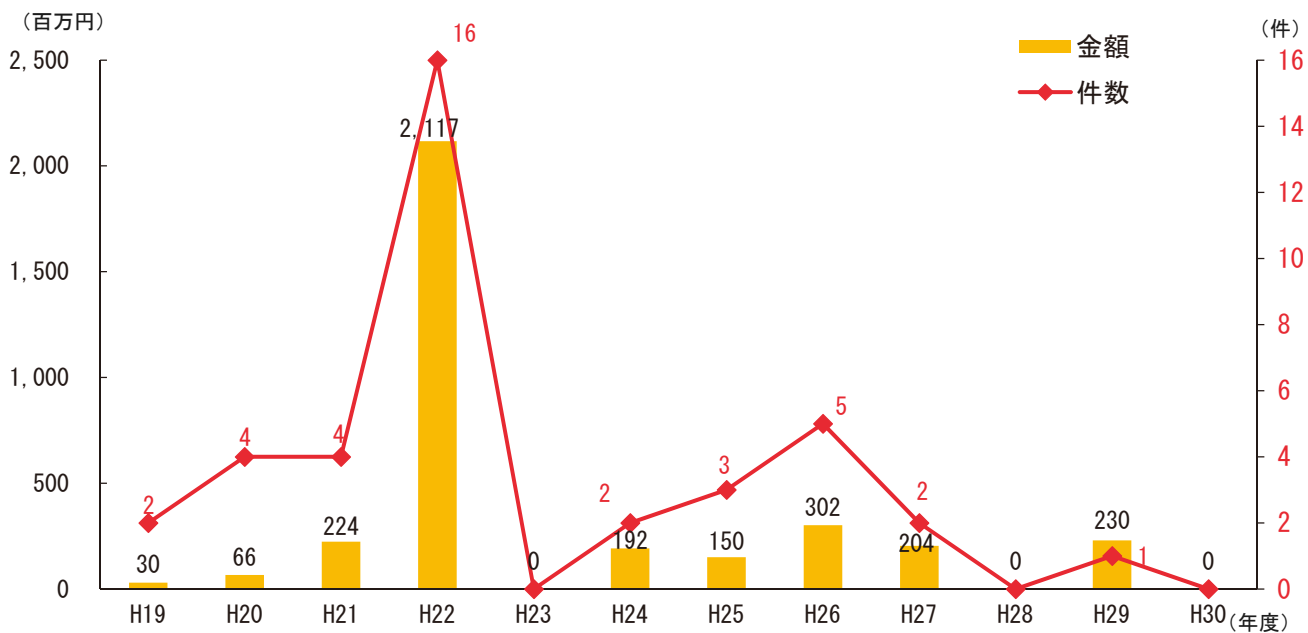
#### (1) 大家畜



※平成19年度までは大家畜経営改善支援資金、平成20年度からは大家畜特別支援資金  
 ※平成21・22年度は畜産経営維持緊急支援資金含む  
 ※平成25・26・27年度は畜産経営改善緊急支援資金含む

資料：「県畜産振興課調」

#### (2) 養豚



※平成19年度までは養豚経営改善支援資金、平成20年度からは養豚特別支援資金  
 ※平成21・22年度は畜産経営維持緊急支援資金含む  
 ※平成25・26年度は畜産経営改善緊急支援資金含む

資料：「県畜産振興課調」

# IX 試験研究

## 1 畜産試験場 試験課題一覧

<b>【肉用牛部】</b>	
	ゲノミック評価を活用した「宮崎牛」の新たな改良手法に関する研究
	新たな育種手法を活用した種雄牛造成実証事業
	「宮崎牛」のおいしさの見える化試験
	肉用牛繁殖経営におけるICTや発酵TMRを活用した生産性向上の検討
	競争力のある肥育牛生産体系の開発に関する研究
<b>【酪農飼料部】</b>	
	乳牛の長命連産性を可能とする飼養管理技術体系の確立
	家畜の健全性向上のための泌乳平準化技術の開発
	省力化を担保した丈夫な乳用後継牛を育成する高度哺育プログラムの開発
	共同受託試験(イタリアンライグラス系統適応性検定試験 他)
	飼料作物の優良品種選定試験
	自給飼料分析指導事業
	自給飼料生産の機械化体系確立試験
<b>【家畜 バイテク部】</b>	
	効率的胚生産技術共同試験
	優秀乳用後継牛の効率的作出技術の確立
	受精卵移植における受胎率向上試験
	ICT・IoT技術を活用した飼養管理効率化技術の開発
	牛飼養管理効率化のためのウェアラブルセンサーの開発と実証
	食品廃棄物を用いた機能性成分高含有飼料の製造及び家畜への給餌に関する研究
	受精卵供給事業
<b>【川南支場 養豚科】</b>	
	未利用資源を有効活用した銘柄豚生産技術試験
	宮崎の暑さに負けない強い養豚生産技術の開発
	新たな「宮崎ブランドポーク」作出試験
<b>【川南支場 養鶏科】</b>	
	みやざき地頭鶏総合支援事業
	みやざき地頭鶏の新たな生産性向上対策試験
	能力向上とヒナの安定供給を目指した種鶏づくり
<b>【川南支場 環境衛生科】</b>	
	見える畜産環境対策技術確立試験



**【ミラー型牛枝肉撮影装置】**

これまで、人が目視で判定していたロース芯中の脂肪面積割合や脂肪のあらさ・細かさを、デジタルデータとして数値化することが可能となります。この装置による解析データを今後の改良に活かします。



**【ドローンを活用した飼料の生育診断】**

ドローンによる空撮で得られる画像を解析することで、飼料作物の生育を評価する新たな手法の研究を行い、飼料分野におけるスマート農業推進を目指します。



【優良精子捕集器具】

運動性の高い精子は遺伝子欠損が少ないとされ、優良な精子のみを体外受精に使用することで、良質な胚が生産できないか研究を行っています。



【画像処理システム豚体重測定装置】

豚の画像を人工知能により解析し、体重を推定する装置の開発・研究を行っています。これにより体重測定に係る労力軽減が期待できます。



【「みやざき地頭鶏」幼雛期飼養管理試験】

幼雛に最適な飼料成分や餌槽面積を明らかにすることで、出荷日齢の短縮や出荷時体重のバラツキを最小限にするための研究を行っています。



【臭気センサーを活用した臭気低減装置】

農場から発生する悪臭を、臭気センサーでモニタリングし、臭気濃度が高い場合、脱臭装置等を自動で運転するシステムの研究を行っています。

【 畜試トピック ～養鶏科より～ 】

○「改良型みやざき地頭鶏」完成

川南支場養鶏科では、「美味しさ」は維持しつつ、増体に優れた「改良型みやざき地頭鶏」を開発しました。令和3年度には、飼育する全ての農家で「改良型みやざき地頭鶏」が生産される見込みです。

○「みやざき地頭鶏飼養管理マニュアル」の改訂

飼養管理マニュアルが改訂されました。「改良型みやざき地頭鶏」にも対応しています。

- 主な改正点
- ・ 出荷目標数値に出荷体重を追加
  - ・ 幼雛期管理について詳細に掲載
  - ・ 生産農場で活用できる試験場の成果を掲載
  - ・ 写真を多用し、わかりやすく掲載

